

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 60261288 A

(43) Date of publication of application: 24.12.85

(51) Int. Cl

H04Q 3/52

(21) Application number: 59117972

(71) Applicant: MEISEI ELECTRIC CO LTD

(22) Date of filing: 08.08.84

(72) Inventor: SHIGETA YUKIO
KATSUYAMA KAZUO

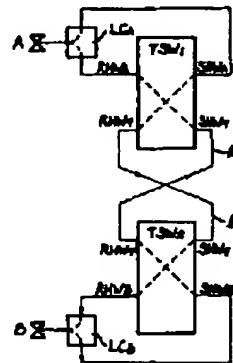
(54) CHANNEL EXTENSION METHOD OF TIME
DIVISION SWITCH

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio

(57) Abstract:

PURPOSE: To increase easily the number of channels by providing time division switches whose transmission-side highways and reception-side highways are so connected crosswise that one transmission-side highway is connected to the other reception-side highway.

CONSTITUTION: Voice transmitted from a telephone set A is encoded and is subjected to 2 wire-4 wire conversion by a line circuit LCA. This voice passes a transmission-side highway SHWA of a switch element TSW₁, a reception-side highway RHW₇ of the element TSW₁, a link connecting line l₂, and a reception- side highway RHWB of a switch element TSW₂ successively and is inputted to a line circuit LCB of a telephone set B and reaches the telephone set B. Similarly, voice transmitted from the telephone set B passes the circuit CLC, the highway SHWB, the highway RHW₇, the link connecting line l₂, the highway SHW₇, and the highway RHWA and reaches the telephone set A.



⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A) 昭60-261288

⑬ Int.Cl.

H 04 Q 3/52

識別記号

101

庁内整理番号

8125-5K

⑭ 公開 昭和60年(1985)12月24日

審査請求 有 発明の数 2 (全4頁)

⑮ 発明の名称 時分割スイッチのチャンネル拡張方法

⑯ 特願 昭59-117972

⑰ 出願 昭59(1984)6月8日

⑱ 発明者 重田 幸男 東京都文京区小石川2丁目5番7号 明星電気株式会社内
⑲ 発明者 勝山 一夫 東京都文京区小石川2丁目5番7号 明星電気株式会社内
⑳ 出願人 明星電気株式会社 東京都文京区小石川2丁目5番7号
㉑ 代理人 弁理士 谷山 輝雄 外3名

明細書

1. 発明の名称

時分割スイッチのチャンネル拡張方法

2. 特許請求の範囲

1 複数の時分割スイッチ素子それぞれの一部のハイウェイを、一方の送信側ハイウェイが他方の受信側ハイウェイに互に接続されるようにして交差状に結合した時分割スイッチのチャンネル拡張方法。

2 複数の時分割スイッチ素子それぞれの一部のハイウェイを、一方の送信側ハイウェイが他方の受信側ハイウェイに互に接続されるようにして交差状に結合し、かつ交差状に結合した経路中にリンクとして使用するチャンネルを指定するためのチャンネルゲートを設けた時分割スイッチのチャンネル拡張方法。

3. 発明の詳細な説明

(本発明の技術分野)

本発明はデジタル電話交換機又はデジタルオプション電話装置等、デジタル電話装置のスイッチネ

ットワークに使用される時分割スイッチのチャンネル拡張方法に関するものである。

(本発明の技術背景)

集積回路 (IC) 化された時分割スイッチ素子の一般的なものは、32チャンネルの容量のハイウェイが8本で構成され、従って1個の素子で256チャンネルのスイッチネットワークが構成できる。

上記より更に多くのチャンネルを必要とする場合、一般的には時分割スイッチ素子に更に多くのハイウェイを設けるか、又はハイウェイ当たりのチャンネル数を多くすることが考えられるが、この方法は時分割スイッチ素子の汎用性が薄れて実用的ではない。

(本発明の目的)

本発明は、以上にかんがみ、汎用的な時分割スイッチ素子を複数個用いて極めて簡単にチャンネル数が拡張できる方法を得ることを目的とする。

(本発明の概要)

本発明は、以上の目的のために、複数の時分割スイッチ素子の一部のハイウェイを時分割スイッ

チネ子相互間を連結するリンクとして使用するよう構成したものであり、また、時分割スイッチネ子間を結合した(リンク結合した)ハイウェイのチャンネルのうち更にリンクとして使用するチャンネルを指定して使用するよう構成したものである。

(本発明の実施例)

第1図はリンク結合したハイウェイの全てのチャンネルをリンクとして使用するよう構成した実施例のプロック図、第2図はリンク結合したハイウェイの一部のチャンネルをリンクとして使用するようした実施例のプロック図、第3図は互に異なる時分割スイッチに収容された電話機相互間の通話経路を説明する図、第4図は他の実施例のプロック図である。

まず、第1図に示す実施例を説明すると、複数の時分割スイッチ、実施例では2個の時分割スイッチ TSW₁, TSW₂ は汎用のもので例えば前記のようく 8 本のハイウェイで 1 ハイウェイ当たり 32 チャンネルを有するネ子を使用するものとする。8

本のハイウェイはそれぞれ送信側ハイウェイ SHW₀ ~ SHW₇ と、受信側ハイウェイ RHW₀ ~ RHW₇ で構成され、第1の時分割スイッチネ子(以下、スイッチネ子という。) TSW₁ の第8の送信側ハイウェイ SHW₇ とスイッチネ子 TSW₂ の第8の受信側ハイウェイ RHW₇ とが接続され、第1のスイッチネ子 TSW₁ の第8の受信側ハイウェイ RHW₇ と第2のスイッチネ子 TSW₂ の送信側ハイウェイ SHW₇ とがそれぞれリンク結合線 L₁, L₂ で交差状に結合されており、この実施例では第8のハイウェイのチャンネルの全部、すなわち 32 チャンネルがリンクとして使用される。従って電話機、各種トランク等が接続できるリンク数はそれぞれのスイッチネ子 TSW₁, TSW₂ について 7 本であり、これらによつて使用できるチャンネル数は 448 チャンネルである。

以上のように構成した時分割スイッチによる通話経路について第3図で説明する。

第3図は、第1のスイッチネ子 TSW₁ のハイウェイに接続された電話機 A と第2のスイッチネ子

TSW₂ のハイウェイに接続された電話機 B との間での通話経路を示している。尚、電話機 A の収容ハイウェイを RHW_A(受信側)及び SHW_A(送信側)で示し、電話機 B の収容ハイウェイを RHW_B(受信側)及び SHW_B(送信側)で示す。

電話機 A から送出された音声はライン回路 LC_A で符号化(デジタル信号に変換)及び 2 線 - 4 線変換され、第1のスイッチネ子 TSW₁ の送信側ハイウェイ SHW_A、第1のスイッチネ子 TSW₁ の受信側ハイウェイ RHW₇、リンク結合線 L₁、第2のスイッチネ子 TSW₂ の送信側ハイウェイ SHW₇、第2のスイッチネ子 TSW₂ の受信側ハイウェイ RHW₇ を順次たどつて電話機 B のライン回路 LC_B に入力され 4 線 - 2 線変換及び復号化(アナログ信号に変換)されて電話機 B に達する。同様にして電話機 B から送出された音声は「LC_B → SHW₇ → RHW₇ → L₁ → SHW₇ → RHW_A → LC_A → A」のようにして電話機 A に達する。上記通話経路に於いて指定される各ハイウェイでのチャンネルは、対である送信側と受信側(例えば RHW_A と SHW_A)は同一チャンネルが指定される

が、互に異なるハイウェイ間の指定は任意である。尚、このチャンネル指定については第2図及び第4図に示す実施例でも同様である。

次に第2図に示す実施例を説明すると、この実施例は前記第1図の実施例のリンク結合線 L₁, L₂ に、リンクとして使用するチャンネルを指定するためのチャンネルゲート CG₁, CG₂ を設けたものである。すなわち、例えば交換機の中央制御装置から送出されるチャンネル指定情報によって当該チャンネルゲート CG₁, CG₂ が導通し、上記チャンネル指定情報の到来毎にスイッチネ子 TSW₁, TSW₂ 間の通信路が形成される。

この第2図の実施例ではチャンネル指定情報で指定されるチャンネル(以下、リンクチャンネルといいう。)以外のチャンネルは通常の通話チャンネルとして使用できる。従つて、例えばリンクチャンネルを 10 チャンネルとすれば他の 22 チャンネルは通話チャンネルとすることができ、交換機等の呼出から多くのリンクチャンネルを必要としないときのチャンネルの節約に好都合である。

この第2図の実施例で、チャンネル指定情報によるリンクチャンネルの指定方法は固定的な指定の方法と、中継呼(この場合、スイッチ素子TSW₁、TSW₂間にまたがる呼をいうものとする。)の発生の都度、空いているチャンネルを指定する方法とが考えられるが、後者の方をとる場合、当該リンクチャンネルとしてチャンネルの一部を使用するハイウェイに於いて例えば全チャンネルが通話チャンネルに使用されると中継呼の接続が不可能となるので、このような事態が生じないようにするためには、当該ハイウェイ中、通話チャンネルとして使用できるチャンネル数の最大数(又はリンクチャンネルとして使用できるチャンネル数の最少数)を設定しておく必要がある。また、このようにした場合、当該ハイウェイに接続された機器の番号になる確率が高くなるが、当該機器は、例えば電話機の保守、試験用装置のように発生する呼量が少ない機器に選定すれば、運用に何等さしつかえはない。

第2図に示す時分割スイッチでの通話経路は前

記第3図の説明で容易に理解できるのでここで改めて説明しない。

以上の実施例は、いずれもスイッチ素子が2個の場合の実施例であるが、更に多くのチャンネル数を必要とするときには例えば第4図に示すように次々とスイッチ素子をリンク結合していくればよい。

(本発明の効果)

以上に説明した所から明らかのように、本発明によれば汎用的なスイッチ素子の使用で極めて簡単にチャンネル数が拡張でき、本発明は極めて大きな効果を奏するものである。

4. 図面の簡単な説明

図面はいずれも本発明の実施例を示すもので、第1図、第2図及び第4図はそれぞれ実施例のブロック図、第3図は実施例の通話経路を説明するブロック図である。

(主な記号)

TSW₁、TSW₂、TSW₃…時分割スイッチ素子、
SHW₀～SHW₄、SHW_A、SHW_B…送信側ハイウェイ、

RHW₀～RHW₇、RHW_A、RHW_B…受信側ハイウェイ、
L₁、L₂…リンク結合線、
CG₁、CG₂…チャンネルゲート。

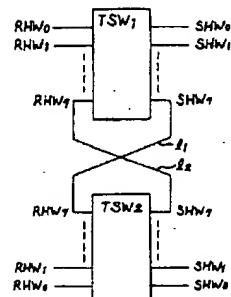
代理人 谷山輝雄

本多小平

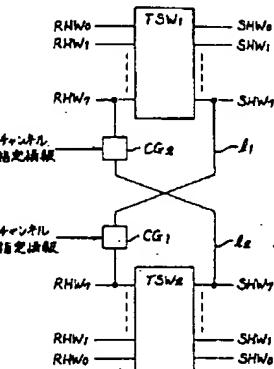
岸田正行

新部興治

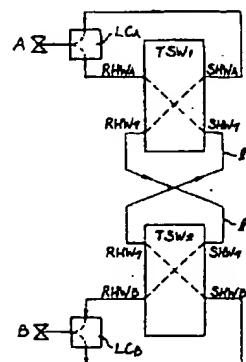
第1図



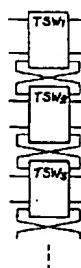
第2図



第3図



第4図



BEST AVAILABLE COPY

特開昭60-261288(4)

手 続 補 正 書

補 正 書

昭和60年7月11日

特許庁長官宇賀道郎 殿

本願明細書中下記事項を補正いたします。

1. 事件の表示

昭和59年特許願第117972号

記

2. 発明の名称

時分割スイッチのチャンネル拡張方法

1. 第4頁13行目に

「リンク数」とあるを
「ハイウェイ数」と訂正する。

3. 補正をする者

事件との関係 出願人

住所(店所) 東京都文京区小石川2丁目5番7号

氏名(名称) 明星電気株式会社

代理人 谷山輝雄

4. 代理人

住所 京都千代田区丸の内2丁目6番2号九の内八重洲ビル330

氏名 (3667) 谷山輝雄

5. 補正命令の日付

昭和 年 月 日

6. 補正により増加する発明の数

7. 補正の対象

明細書の充実の詳細な説明の箇

8. 補正の内容 別紙のとおり

